

- 大妻 コタカ 先生の言葉から - 「真の学問」 - 昭和3年7月「白ゆり」から抜粋

要するに、私共はいつも世の常道をのみ歩行することを許されない場合が多いのですから、いろいろと場合にに応じて適当の処置を取り得る準備を常に備え、どんな事柄に突き当たっても、悠々自適善処することのできるだけの実力を備えなければならない、応用自在の力を要します。私共の処世に必要であるその教養は、また社会で求めているところのものでございますれば、学校で学び得た知識がすべての生活に真つ当に活用し得る人となっていただきたいと思っております。

From the Principal - *Growth Mindset II (1 学期終業式式辞より)* - 校長 野崎 裕二

皆さん、こんにちは。新型コロナ・ウィルス禍の状況で、残念ながら生徒の皆さんに直接、式辞を述べることはできませんが、7月31日を以て第1学期の終了といたします。

新型コロナ・ウィルス感染拡大防止のため、多くの学校が長期の臨時休業となりました。本校も、令和元年度3学期期末テストがなくなり、令和2年度4月になっても入学式はWEBで行い、いよいよ5月連休明けには学校再開と思われましたが、オンライン学習が継続されました。6月に入って学校での授業が再開されたものの、分散短縮で行われ、結局、新年度の7月末現在で、まだ完全な再開はできていません。この休業期間が与えた、特に皆さんへの影響を、非常に心配していました。

この生徒の皆さんの在宅学習期間においても、先生方は会議を重ね、新しい「学び方」のデザインなどを検討し、授業方法や教材を練り上げてきたと同時に、生徒の皆さんの感染防止のために、6月の学校再開に向けて様々な準備をすすめてきました。特に、帰りのホームルーム、清掃が終わって、皆さんが帰った後、教室の机、椅子、教具などは先生方が入念に消毒を行い、普段、校内の清掃を担当していただいている4名の用務員さんには、これまでも廊下の床、ドアの取手などは、頻りに清潔にして頂いていましたが、さらに加えて、すべてのトイレの清掃、消毒をお願いしています。現在、2学期に向けてより効果的な体制を準備中ですが、これまでの期間に構築された「オンライン学習と学校での授業との併用」という学び方は、皆さんにとっても、これからの社会で非常に役に立つものだと考えております。

さて、ここ数年、日本や世界は様々な面において、大きく変わろうとしていることは、皆さん知っての通りですが、今回の世界規模のコロナパンデミックが与えた様々な危機感、不安に対して、社会の変化は加速され、新しい価値観を受け入れ、日常化せざるを得ない状況にあると思います。この状況下では、これまで以上に前向きな思考で大きな視野を以て、創意工夫をすることが必要になってきます。生徒の皆さんには、これまでの自分を振り返りつつ、より前向きな思考になっていくためには、例えば、「自分には無理だ」ではなく、「まずは取り組んでみよう！」だとか、うまくいかないのなら、別の方法を考えるだとか、考え方の転換をしてみてください。この前向きな思考は、皆さんの新しい道を切り開いていく大切な武器「GROWTH MINDSET」となっていくことでしょう。ぜひ実行してみてください。

また、部活動や多くの行事がコロナの影響を受けていますが、学校は、生徒の皆さんが「今ある社会」や「変化していく社会」を俯瞰し、自分のなすべきことを考え、行動し、将来の自分の生き方や自然と共存していける社会の在り方を仲間とともに構想していける場であると思います。そして、我々一人ひとりには人類の一員として持続可能な社会を目指す責任があります。「前向きに深く学ぶこと」自体が責任を果たすことであり、コタカ先生のいう「社会貢献」に繋がっていきます。

最後に、今年は日本や世界の多くの人々にとって困難な状況が様々な形で発生しています。今後の日本や世界の行方に不安を抱いている人も少なくないはずですが、きっと人類は協力して危機を乗り越え、未来に繋がる新しい社会を構築していくと私は思っています。

夏休みを有意義に過ごし、また2学期、お互いに元気な顔でお会いしましょう！そして、高校3年生の皆さん、この夏が皆さんの未来への最良のステップとなることをお祈りしています。

これまでの自分	GROWTH MINDSET
これ以上良くはできない	改善できることはないか
もう十分、こんなものでいいよな	本当にこれは自分のできる最善か
もうダメ、つらい	脳のためにはきっと良いことだ
うまくできない、苦手だなあ	何かを見落としているかもしれない
こんなこと、ハード過ぎる	時間をかけてじっくりやろう
自分には無理だな	やり方を調べてみよう
だめだ、あきらめよう	きっと何か方法があるはずだ
あ～あ、失敗してしまった	失敗も大切な経験だ
この計画はうまくいかなかった	別の計画を考えてみよう
あの人はならできけど、自分は…	あの人に教えてもらおう



From New Zealand - Special Greeting / 大妻中野の皆様へ - Ms. Teffrey Suzuki

1学期が終わり、夏休み。例年であれば、この時期、本校生徒の多くが、アメリカ、イギリス、フランス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなど世界各国の海外短期研修に出かけている時期です。今年は、グローバル・ロックダウンというべき状況下で、残念ながら、直接、海外の皆さんと交流できません。そんな中で、1学期の終わりに合わせて、本校のニュージーランド留学のガーディアンである Ms Teffrey Suzuki (テフリー・鈴木先生)から、大妻中野に向けて、挨拶とメッセージを頂きました。原文は英語ですが、テフリー先生のご主人が日本語に訳してくださったものを後に沿えます。必ず、次にまた一緒にNZで勉強することが出来る時が来ます！



To all Otsuma Nakano students and staff,

This is Teffrey Suzuki from New Plymouth, New Zealand. I have had the pleasure to meet many Otsuma Nakano students in New Zealand over the last 5 years. As some of you know, I was an English teacher at Otsuma Nakano from 2011- 2014, and then I started my own study abroad business to bring Otsuma Nakano students to New Plymouth.

Students who have come to New Zealand have not only improved their English, but through living in an English-speaking country, every single student grew up mentally as they overcome differences and experiences. The most important thing these students could learn was to be positive, rather than negative. The food is different here, most kiwis don't eat rice every day, maybe only once a week, most kiwi girls don't speak slow English, but native English. This is to just name a few of the differences. Students who accepted the differences positively and understood it was temporary, went on to have more enjoyable experiences. Hopefully, koul students who had planned to come to NZ this year, can reschedule their trip for term 1 2021, depending on the world situation. Your positive mind is the biggest asset you can bring with you.

It is the end of July, which is usually when our chu 3 students' 2 week programme would be running. Right now, chu 3 students could have been sitting in an English class or doing some activities in New Plymouth. There is still a hope some programme can be run for you all sometime. Your positive mind is also



the biggest asset you can bring with you here. In two weeks, it is hard to make a dramatic improvement to your English, but being a positive member of your class here and your homestay will allow you to have the best experience.

Suzuki family welcomed our second baby daughter, Sen Suzuki in week 2 of our level 4 lockdown. She is now over 100 days old. Many of our NZ students have made a special connection with our 5-year-old daughter Arie, and we can't wait to introduce Sen to you too. I look forward to supporting you on short programmes and long courses in New Plymouth, New Zealand.

Fingers crossed for 2021. Let's be positive together!

大妻中野の皆様へ

ニュージーランド、ニュープリマスのテフリー・鈴木です。今ではご存知の方も少なくなってきましたが、2011～2014年の間、大妻中野中高で英語教師として勤務していました。その後、母国ニュージーランドに戻り、日本の生徒を受け入れる留学プログラムをスタートしました。お陰様でニュージーランドにいながら、この5年間で多くの大妻中野の留学生と関わらせて頂きました。

ニュージーランドで留学体験をした生徒達は皆、英語力の向上に加え、著しいメンタル面の成長も見られました。新しい経験、文化や習慣の違いを乗り越えることは大きなチャレンジです。その中で最も大切なことは”Positive＝前向きであること”と言えるでしょう。例えばこちらではお米を食べる習慣はありませんし、普段外国人向けにゆっくりと平易な英語を話すことにも慣れていません。この違いを留学期間の早期に受け入れられた生徒は、より楽しい留学生活を送れたと思います。

今、8月に入り、例年であれば中3の2weekプログラムが行われているタイミングです。残念ながら今回の世界的混乱で予定していた留学が中止・延期になってしまった生徒は、上記のように新しいことに前向きに取り組める心構えをして下さい。

世界中が新しい価値観、新しい生活様式に移行することを余儀なくされています。これは留学によって新しい経験をするということとある意味では似ています。混乱や恐怖に惑わされず柔軟に、前向きに取り組むことが、今後より必要になってくると思います。その意味でも世界のメインストリーム言語と言える英語を学び、海外のニュース、映画、音楽、海外の友人との交流などを通じて、世界的な視野から日本・自身の生活を見つめることが、将来の方向性や進路を決める上でも大切になってくると思います。

さて、鈴木ファミリーには次女の鈴木千(せん)が加わりました。ニュージーランドの4週間のロックダウンの中の4月9日に生まれました。長女のありえは留学に来て生徒達にとっても可愛がってもらったので、千も皆さんにお会いできること楽しみにしています。

引き続き混乱が続く2020年ですが、どんな時にも勉学・知識は役立ちます。この期間をチャンスと捉えしっかりと前向きに羽ばたく

準備をして下さい。これからもニュージーランド留学をサポートしてまいりますので、より良い将来を迎えるためにも、皆で”Positive=前向きであること”を忘れずに取り組んでまいりましょう！

- 留学生との面談で思ったこと – Interview with Exchange Students – Ms. Jihan Victoria

6月から7月にかけて、昨年からの1年留学に出かけていた留学生徒との校長面談が行われました。アメリカ、カナダ、イギリス、アイルランド、フランス、ニュージーランドでの1年留学を終えた25名の高校生です。今回の留学は、新型コロナウィルスの影響で、多くの留学生が途中帰国を余儀なくされました。だからこそ、その体験をしっかりと受け止め、自分の留学経験を言語化し、次のステップに繋げる面接です。

今回の留学では、特にカナダの学校への留学生が多かったこともあり、本校のカナダ人教員のMs. Jihan Victoria 先生が、校長先生との面接に加わり、英語で、留学生にその体験を振り返るサポートをしてもらいました。その Victoria 先生から、面接を振り返って、そこで感じたこと、アドバイスなどについて、書いてもらいました。これも原文は英語です。日本語訳を次につけます。これから、海外に積極的にチャレンジしたい人、特にしっかりと読んでみましょう。



When I was interviewing the participants of Otsuma Nakano's study abroad program, I was very happy to hear that all of the participants had an overwhelmingly positive experience. Living and studying abroad, as one expects when being exposed to the unfamiliar, was not without their challenges. However, all the students recognized that it is through these challenges that they grew.

The most apparent obstacle to overcome was language. During my interviews, a lot of students expressed that they felt like they lacked in their English skills when they first arrived to their study destination. There was this fear that they will not be able to communicate with their peers. However, they adapted to their new environments. Initial anxieties they had about communicating decreased as they were able to practice speaking with their peers. Coming back to Japan, almost everyone had an increased confidence with English.

Living abroad also broadens one's perspective. Several of the participants expressed that though they left Japan with some preconceived notions about the foreign country they were going to, living in that country has challenged these beliefs. They came back to Japan determined to think more critically and open mindedly.

Japan and Canada differ quite a bit in the people communicate with each other. A lot of the participants found it very challenging at first to communicate their feelings and opinions. It was not an easy task, but a lot of them proudly say that they are able to express themselves better because of their international exchange. One student even commented that she plans to join a speech contest, something that she would have never done before her exchange.

For most of the participants, it was the first time they were going to be away from their families for a prolonged period of time. It gave them a chance to be independent and think for themselves, but it also taught to appreciate their communities. Throughout their narrations of the different challenges they faced, the Otsuma Nakano students would always bookend it by saying how much they appreciate and value the help people around them gave, something that they used to take for granted.



今回、私は、大妻中野の1年留学プログラムに参加し、留学を終えた生徒たちの面談を担当しました。その時に、留学をした生徒皆が圧倒的にポジティブな経験をしましたということを話してくれてとても嬉しくなりました。自分の知らない環境の中に飛び込んだ時、人は誰でも思うことですが、生活でも勉強でも、困難がなかったわけではありません。しかし、本校の留学した生徒は、皆、これらの困難を通じて成長したことを、しっかりと認識していました。

もちろん、乗り越えなければならない最も明白な壁は、言葉です。留学先に着いたばかりの頃、自分の英語力が足りないと感じていましたと多くの生徒が面談の中で話していました。彼女たちはクラスの仲間とコミュニケーションを取ることができないという不安を持っていましたが、新しい環境に慣れていきました。クラスの仲間と話す練習をすることができたので、彼女たちがコミュニケーションについて持っていた最初の不安は解消されました。日本に戻ると、生徒の殆どが英語に自信を持っていました。

また、外国で生活することで視野が広がります。留学先の国についてある先入観を持って出発したのですが、こうした私の考え方が変わりましたと報告してくれた生徒もいました。彼女たちは日本に帰国してから、留学を通して、ものごとをより批判的で広く考えることを決意していました。

日本とカナダでは、コミュニケーションの取り方が全く異なります。留学をした生徒たちの多くは、最初は自分の気持ちや意見を伝えることが非常に難しいと感じていました。自分の気持ちや考えを伝えることは簡単なことではありませんでしたが、この留学のおかげで自分をもっと上手に表現できるようになったと話していました。ある生徒は、留学前は一度も挑戦したことがなかったスピーチ

コンテストに参加する予定ですとさえ話してくれました。

留学した生徒の殆どにとって、長期に亘り、家族から離れようとしたのは、これが初めてでした。彼女たちは、自立し、また、自分自身で物事を考えるという機会を与えられた一方で、自分の周囲の地域社会に感謝することも教わりました。彼女たちが遭遇した困難についての談話全体を通じ、どの生徒もこれまで当たり前のことと考えてきた、周りの人々が与えてくれた援助にどれほど感謝しているかということを強調し、話し終えました。

Students' Reports - Beyond School - English Essay Workshopへのチャレンジ -



高校生対象

エッセイライティング ワークショップ (東京・大阪)

本校では、“Beyond School” を合言葉に、国内外の様々な外部プログラムに **“challenge - 挑戦”** して、新しい自分の可能性を **“construct - 作りあげ”**、そして、自分の未来を **“Create - 創造”** することに力を入れ、奨励しています。

その中でも、論理的にものごとを捉え、課題を発見し、世界の人々と協働して、その解決に取り組んでいくアカデミックな言葉の力、Academic English Proficiencyを重視しています。これにピッタリなプログラム - TOEICを運営するIIBC(国際ビジネスコミュニケーション協会)が主催する「エッセイ・ライティング・ワークショップ」が開催され、本校の生徒2名がチャレンジしました。

生徒2名がチャレンジしました。

その様子について、本校を代表して参加した高校2年生の手塚まりこさんと齊藤莉子さんが英語と日本語でレポートをしてくれます。本校のアカデミック英語への取り組みを理解する一助となるとと思います。

I'm Mariko Tezuka, and I joined the essay workshop hosted by the IIBC for the IIBC essay contest. The workshop took place in July 22nd with care for COVID-19, and 16 students from various schools joined.

After we got to know each other, lecturers gave us a lesson on what an essay is and how it is formed. We all understood the roles each paragraph should play through discussions. We had lunch break, and deepened our knowledge about the previous lecture through Kahoot! After that, it was back to the essays again!

What's more, in the afternoon, we had time to write our actual essays. Our essays were shared to the professors via Google Documents and we received direct feedbacks from them which was really helpful for us. 6 hours seemed like a long time, but time did fly quick!

Overall, through this workshop, I was able to gain more knowledge on how to create effective essays and the essential parts of it. I will not forget what I have learned and will surely put this on practice in the near future. Thank you so much for their excellent advice to the teachers!

by Mariko Tezuka

こんにちは！今回、第12回高校生対象IIBCエッセイコンテスト - ライティングワークショップに参加した高校2年の手塚まりこです。このワークショップは7月22日に感染症対策に十分に配慮しながら開催され、関東各地からの高校生、16名が参加しました。

はじめに自己紹介の後、アイスブレイクでゲームを行いお互いの距離を縮めました。楽しいアクティビティーの後には真剣モードに突入。エッセイを**イントロダクション、ボディ、コンクルージョンと砕いていき、それぞれのパラグラフの役割**などについてのレクチャーを受けました。さらに、**生徒同士でのディスカッションやチームでのグループ作業**などを通してより深く内容について考えさせられる場面もありました。

また、昼食後、Kahoot!と呼ばれるオンライン型クイズによって午前中に学んだエッセイの技法をおさらいしました。その後は、各自用意した3つのアイデアをもとにエッセイを書き始め、Google Documentsを使って実際に、立教大学のネイティブの先生である講師に添削をしていただきました。直接アドバイスをいただく貴重な時間が得られたことはとても有意義なものでした。

このワークショップを通して**エッセイの技法やルール習得は勿論のこと、より良いエッセイを作るためには構成がいかに重要か**ということにあらためて気づかされました。ここでの新しい学びを無駄にせず、将来に役立てたいと思います。先生方、貴重なアドバイス、ありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

Hello, I am Riko Saito. Fortunately, I participated in the English Essay Workshop which was held by IIBC on July 22. There were about 16 high school students who had a variety of backgrounds, which drove us to make active discussion and to learn about the method to write a good Essay.

At the workshop, of course we only used English. So, it was for the first time when I got back to Japan to spend a day with only English, and it reminds me of the memories of my study abroad. I missed the memories, but also it made me motivated. Among the participants, there were people who had lived in another country and lots of students were active. It was a highly valuable day.

Meanwhile, I had lots of opportunities to write an English essay before this workshop. So, I had thought I was used to write an Essay, but it wasn't. I was able to review my Essay because of the lesson. I had each

paragraph of my essay checked by the teachers there and then I could see my great improvement.

Finally, I will use this experience from now on. In the future, there will be more opportunities to write an English Essay, so I really appreciate this valuable opportunity for me to gain skills of how to write a good Essay. I would like to thank the teachers in charge of this workshop.

by Riko Saito

こんにちは、高校2年の齊藤莉子です。私は7月22日に行われたIIBC主催の英文エッセイ・ライティング・ワークショップに参加しました。様々なバックグラウンドを持つ高校生16名程が集まり、意見交換やエッセイの書き方を学びました。

今回は授業、会話など全てが英語で行われたため、昨年、留学をした私にとって久しぶりの英語漬けの一日はどこか懐かしさがあり、留学中の思い出が蘇り少し恋しくなりましたが、この思いが一日の原動力にもなりました。参加者の中には海外で生活した人もおり、全体的に活発な人が多かったため毎時間が充実していました。

私は英文を書く機会が多かったため、エッセイを作ることは慣れていると思っていましたが、段落ごとのポイントを細かくチェックしたことによって自分のエッセイの改善点が見つかり、見直すことが出来ました。

今回の学びを、今後存分に活かしていきたいです。そして、これからエッセイを書く機会が一層増すと思いますが、高校生のうちに書き方をしっかり押さえる機会に参加出来たことにとても感謝しています。指導いただいた先生方に感謝申し上げます。

最後に、専門的な立場から、本校の英語教育・グローバル教育アドバイスをいただいている大妻女子大学・同大学院教授、言語学博士の服部孝彦先生からのアドバイスを記します。服部先生は、ご自身が、文部科学省SGHやWWL等の、国のグローバル教育推進のためのリーディング・プロジェクトの中心メンバーとして活躍されている方です。



ー アカデミック英語トレーニングの重要性 ー

日本人が、論理的に書かれた英語を読んだり、論理的に英語を書いたりするのが苦手なのは、単に英語力だけの問題ではありません。その原因の一つは、論理的な文章を読んだり書いたりするトレーニングを積む機会が、不足しているからかであると、私は考えております。

英検の上位級、IELTS、TOEFL iBTや難関大学の自由英作文で求められる力は英文和訳や和文英訳の力だけではなく、英語の知識だけではなく、論理的思考力が求められます。まさしくアカデミック英語の力を身に付けているかをテストされるわけです。

英語学習において模範的なパラグラフを読み、その論理構成を習得することは大切です。ただ、学習者は模範的なパラグラフを読み、その真似をすればアカデミック英語の力がつくわけではありません。アカデミック英語の書き方とその背景にある理論展開を十分に理解しなければ上手に英文が書けるようにはならないのです。英語の学習は奥が深いですが、それだけにやりがいがあるといえます。アカデミック英語の力を身につけることができれば、必ず皆さんの将来に役立ちます。

大妻女子大学・同大学院教授、早稲田大学講師、言語学博士 服部孝彦日本人が、論理的に書かれた英語を読んだり、論理的に英語を書いたりするのが苦手なのは、単に英語力だけの問題ではありません。その原因の一つは、論理的な文章を読んだり書いたりするトレーニングを積む機会が、不足しているからかであると、私は考えております。 - (中略 - Please refer to the Monthly Newsletter of July Issue for the Dr Hattori's full article)

英検の上位級、IELTS、TOEFL iBTや難関大学の自由英作文で求められる力は英文和訳や和文英訳の力だけではなく、英語の知識だけではなく、論理的思考力が求められます。まさしくアカデミック英語の力を身に付けているかをテストされるわけです。

英語学習において模範的なパラグラフを読み、その論理構成を習得することは大切です。ただ、学習者は模範的なパラグラフを読み、その真似をすればアカデミック英語の力がつくわけではありません。アカデミック英語の書き方とその背景にある理論展開を十分に理解しなければ上手に英文が書けるようにはならないのです。英語の学習は奥が深いですが、それだけにやりがいがあるといえます。アカデミック英語の力を身につけることができれば、必ず皆さんの将来に役立ちます。

大妻女子大学・同大学院教授、早稲田大学講師、言語学博士 服部孝彦

Frontier Project Team - 2020年度のフロンティア・プロジェクトへチャレンジ -

ONフロンティアプロジェクトチームの6期生の募集が行われています。対象は中学2年生から高校2年生。今年度の FPT 活動は2学期より開始し、"Think Globally, Act Locally"を合言葉にチームとして地域の課題、国際的な課題についての「探求」していきます。語学力や経験、GLC 可否は問いません。大妻中野の学校生活で、「地域に貢献したい」「世界に貢献したい」そして「自分を変えてみたい」という意欲のある人は、是非フロンティアチームにチャレンジしてみましょう。申し込みの詳細は、manabaを見てください。

フロンティア第1期生の先輩である現在、上智大学外国語学部英語学科4年の片山みらいさんから、フロンティアの体験を振り返ってのメッセージが届いています。ここに紹介します。ぜひ、皆さん、片山先輩に続いてください！

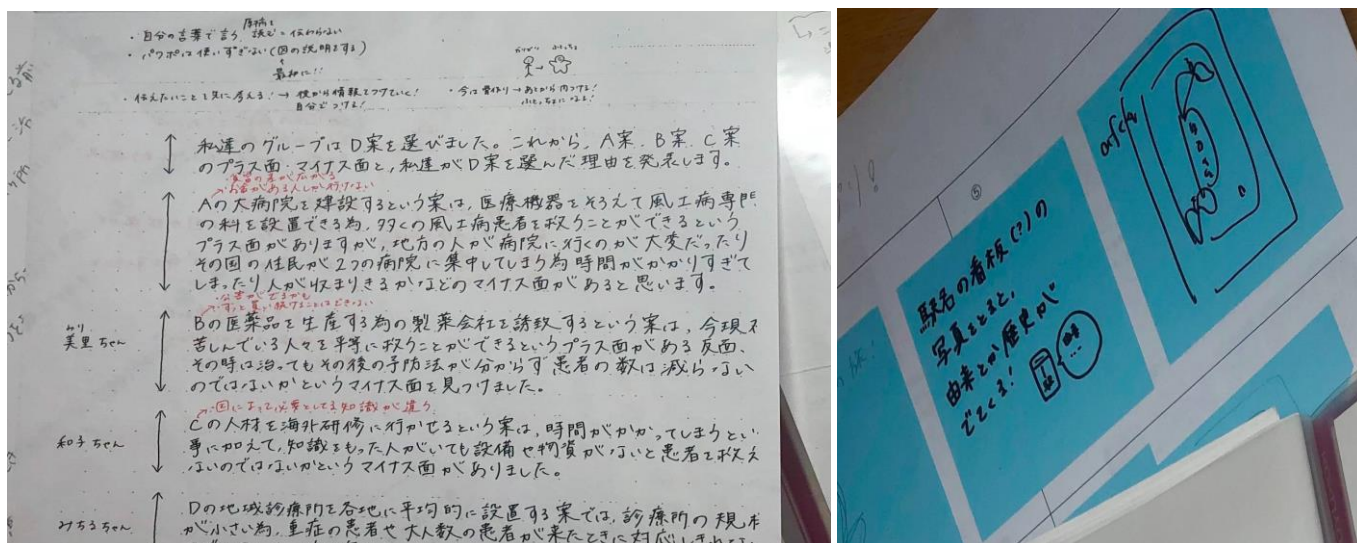
皆さん、こんにちは！上智大学外国語学部英語学科4年の片山みらいです。今回は、大妻中野フロンティア・プロジェクトに参加したきっかけとその体験が、その後に進路にどう影響したかなどを皆さんに共有させていただきたいと思います。

私がフロンティア・プロジェクトに参加しようと思った理由は、「新しい経験ができるって楽しそうだな」と思ったからです。活動内容を具体的にイメージできていたわけではなく不安もありましたが、「何事も挑戦だ!」と思い参加を決めました。実際に活動を始めると、大学の先生とのワークショップや企業の方とのフィールドワーク、他学年を交えたグループワーク・プレゼンテーションなど新鮮なことから、とても充実した楽しい時間を過ごさせていただきました。フロンティア・プロジェクトを通じて学んだ「挑戦することの大切さ」は、大学入試や大学入学後に様々な活動に参加していく上で自分の背中を後押しする力になっています。そして、参加を通じて感じた「様々な人とコミュニケーションを取って視野を広げていく面白さ」は、大学入学後にインドネシアへの交換留学を決めた理由の一つです。

フロンティア・プロジェクトという経験からの気づきは、私のその後の選択を決める上で大きな要素となっています。同じ経験をして、学ぶことは人によって違い、その違いこそが自分の個性・宝物になっていくと思います。今年は状況が例年と違い大変なことも多いと思いますが、そんな時に経験だからこそ気付けることもきっとたくさんあります。少しでも「楽しそうだな」「やってみたいな」と思ったら、その気持ちを大切にしてくださいね!

【写真の説明】

フロンティア・プロジェクト参加時の資料やメモは、一つのファイルに入れて今でも大切に保管しています!



Student Achievement – Principal Award 校長賞・成績優秀者を発表します! –

2019年度 年間成績優秀者 – Principal Award Winners – Congratulations!

2020年度 1学期成績優秀者 – Principal Award Winners – Congratulations!

■ We are sorry for that the following name roster is only for Otsuma Nakano community.

School Schedule - 2020年8/9月の予定 – 今後、変わることもあります。各学年で確認ください!

8月			8/9月		
6	木	IELTS 公式テスト 本校会場実施	23	日	
7	金	学校閉鎖(8月15日まで)	24	月	一斉部会・職員会議・夏季休業終了
8	土		25	火	始業式・LHR
9	日		26	水	授業開始
10	月		27	木	
11	火		28	金	各種テスト
12	水		29	土	第2回学校説明会
13	木		30	日	
14	金		31	月	
15	土	停電・校舎電気設備点検(登校不可)	9月		
16	日		1	火	
17	月		2	水	中高等学校委員任命式・教育実習ガイダンス
18	火		3	木	
19	水		4	金	
20	木		5	土	
21	金		6	日	第2回 TEAP(外部)
22	土	教職員入試研究会	7	月	MMT(E)